

(1) 単元名：一次関数とグラフ

(2) 本時の目標： ① 一次関数の表、式、グラフ相互の関連をまとめ、理解を深める。

② 料金表から一次関数を見出し、一次関数を用いて問題を解決することができる。

国頭地区算数、数学ブロック研究会主催の授業研究会である。沖縄県の学力調査において、特に中学校の数学が課題であるとされている。小学校の算数少人数加配の教師や、中学校の数学の教師たちが、その課題克服のために、日常的に授業研究を重ねて頑張っている。学校、校種を超えた、まさに教師たちの挑戦である。本日も、国頭中の空き先生方、校長先生、教頭先生、他校の先生方の参観があった。

近頃、国頭中の先生方、生徒とも、「見られ慣れてきた。」と感じる。どちらも身構えることなく、特別な緊張感もなく、日常の授業を行っている。



【2つの教室に仲間が分かれ授業を受ける】

本来は習熟度別に少人数の授業が行われるが、今日は習熟度を等質に分けての授業である。当然授業内容も同じである。

少人数加配教諭の運用は、T・Tや、習熟度別であったり、等質の少人数で運営を計画する。年間を通して、単元やレディネス調査を通して決められていくが単純に常に習熟度にしていくとおよその



メンバーが固定されていくことが懸念される。生徒達も大概察するだろう。言葉には出ないが分けられることに不満や違和感を感じる生徒もいるのではないだろうか。習熟度別の学習指導には、校内での共通理解や担当教諭の配慮や気遣いが欠かせない。教師が指導しやすい教室、子ども達が「分かりやすい教室」か、「分かる」と言ってもその学習内容のレベルを下げることによる「できた」感に満足するのではなく、最終的に平等な「分かった」が共有できるようにしたい。さらに、授業は常に生徒の側から考察していきたい。

【前時までの学習の振り返り】

テンポよくあっさり1分以内で終わった。



えらい！常に言い続けるが、生徒は前時までの学習をどれだけ覚えているかためされるより、今日の学習が気なのだ。よくドリル的プリントで10分ぐらい要する場面を見るが果たして？

さらに、時々本単元や今日の授業に関係のない練習が課されることがあるが、できる限り本時の授業に関わりのある「想起する学習」を心がけてほしい。

【気にかける】

授業には整然として入りたい。すぐできます。



【テンションを下げる】学びの授業では、活発な「はい、はい、」授業より、静かで安心できる「しっとりすてきな授業」の経営を目指している。これまで明るく元気にやってきた教師にとって、テンションを下げるという行為一つでも挑戦である。本日の授業者は二人とも椅子に腰かけて語り口調で授業を進めている。しっとりする。ゆっくり静かに授業に入り、淡々と指示や相打ちを打っている。女性の波照間先生はかなり意識してテンションを下げるよう心掛けているのが分かる。真ん中の写真の男子教諭は定臨の教師である。国頭中すべての教師が「一人残らず〜」に挑戦である。



【既習事項の確認】 プリントを配布し2分という時間を設定した。指導案



では5分の設定であるが、授業者は「2分で、できるところまでいい。」と伝える。さらに、2分過ぎると、解答ではなく、プリントを回収し本時の授業の課題へとつなげていった。5分を2分の設定に変えたところに授業者の何らかの心の動きがあったと思われる。それでいい、プランはあくまで案である。その日その時の、生徒の状況から常に見取ってほしい。

【沈黙の学び】

このシーンをどう見ますか？「許せる心」を持ちましょう。



【課題が下りる→グループへ】

	月学基本料金	1分の通話料
Aプラン	3,500	30円
Bプラン	2,000	40円

問：マスオさんは1ヵ月平均180分通話します。どのプランがお得でしょうか。



【微妙な距離感】



近すぎると教師に依存が向けられたり、対話が教師に向けられたりする。関わりすぎてもまた問題である。この微妙な距離はまさしく教師の勘で決めるしかない。さて、下の写真はどうか？ケアに入る教師です。視線の高さを気にかけて見てほしい。

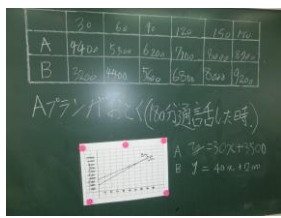
どのグループも違和感なくしっとり学び合う。下の2枚の写真、最初から「分からない」である。目の前の二人のやり取りをじっと見ていた。二人のやり取りが落ち着くのを見計らって「教えて」である（右写真）。

見えない気遣いである。弱い相手への「訊く」のタイミングを気遣っているのである。私はこの子を優しい子とみる。



【結末】 ほとんどのグループが表とグラフを基に解答できたのではないだろうか。結果よりも、私は今日も「学び合い」の美しい姿を見せてもらったことに感謝である。

仲間の表現に向けられる仲間の視線である。右の発表者の視線の先が下写真の仲間である。



仲間の「聴く」という行為に支えられた。表現の共有である。美しい！両者笑顔である。

【1枚の写真】



授業最終。教師の話に聴き入る2年生である。分からなかった子ども達も教師の話をしっかり「聴こう」としている。この教室の全員の視線が同じように向けられ、同じような輝きを放っている。「学び続ける生徒は、決して崩れない！（佐藤学）」この姿ではないだろうか。

「聴き合う」とは、その行為そのものが支え合うことなのである。授業づくりも、学級づくりも、職員の同僚性を高めるのも、まずは『聴き合う関係づくり』である。波照間先生、康平先生、本日もほんとに貴重な授業研究になりました。ありがとうございます。感謝します。

国頭学びの会ゆい